

サッポロっ子と生き続ける

開拓地蔵

札幌の外れから、街の移り変わりを温かく見守ってきた、開拓地蔵。今でも高台から札幌の街並みを見守っています。

開拓当初から札幌の移り変わりを見てきたお地蔵様が、双子山一丁目の地蔵寺にまつられています。

このお地蔵様は、「開拓地蔵」と呼ばれ、明治四年（一八七二年）九月二十四日に現在の南一西五辺りに建立されました。

開拓地蔵は、道祖神（どうそじん）（村境などの道端にあり外来の疫病や悪霊を防ぐ神）の役割を担っていたためか当時の町外れに建てられ、市街地の発展とともにその所在を転々と西の方へ変えました。

この間に、開拓地蔵はいつのまにか首がなくなり、首なし地蔵と呼ばれるようになりました。しかし、大正十三年（一九二四年）ころ、どこからか首が見つかり、胴体に据え付けられ、近所の篤志家が小さな御堂を建てて、毎年例祭も行われるようになりました。

した。

その後、大規模な御堂が建てられ、お参りに来る人たちも次第に増えてきて、昭和十九年に地蔵寺の寺号が授けられました。そして、三十一年、現在の場所に移転となりました。

地蔵寺の住職滝吉照瀧さん（たきよししょうらん）の話では、現在も毎年七月二十四日に例祭が行われ、また、時々お参りの人もみえているようです。札幌の外れから街の発展を見つめてきた開拓地蔵は、今では市街地の中で、街のあまりの変わりように目を見張っていることでしょう（平成五年現在）。

（平成五年十月号・第四回）



開拓地蔵